* 

**乳幼児を動物の毛皮の上に寝かせると喘息リスクが低下する**

Healthday News

公開日：2014/09/23



　動物の毛皮の上で眠る幼児では小児期の後期に喘息を発症する可能性が低いことを示唆する研究報告が、ドイツ、ミュンヘンで開催された欧州呼吸器学会（ERS）で発表された。

  　今回の研究では、ドイツ都市部にすむ健常な新生児2,400人超を対象に、10歳まで追跡調査を実施した。被験者の55%は生後3カ月間、動物の皮の上で寝ていた。動物の皮の上で寝ていた被験者はそうでない被験者に比べて、6歳時に喘息になる可能性が79%低く、10歳までに喘息になる可能性が41%低かった。

　本研究を行ったドイツ、ヘルムホルツ・ゼントラム・ミュンヘン研究センターのChristina Tischer氏は、「以前の研究で、農村環境でみられる微生物により喘息を予防できることが示されている。動物の皮もさまざまな種類の微生物を持つ可能性があり、農村環境と同様のメカニズムが働く。今回の結果から、動物の毛皮における実際の微生物環境を研究し、これらの関連性を確認することが極めて重要であることが確認された」と述べている。

  　今回の研究は、幼児期の動物の皮や毛皮への曝露と喘息発症リスクの低下との関連性を明らかにしたが、因果関係は証明していない。また、学会発表された研究のデータおよび結論は通常、査読を受けて医学誌に掲載されるまでは予備的なものとみなされる。

[2014年9月7日/HealthDayNews]Copyright (c) 2014 HealthDay. All rights reserved.